

秋田県大館市－愛知県名古屋市間の地域における住宅外観の地域的特色

鷲 山 喬

キーワード：大館市－名古屋市 住宅の外観 屋根の素材 屋根の色彩 外壁の素材

I はじめに

住宅地の具体的な外観に関する地理学的研究には、仙台市において可視的側面から各対象地区の形成過程を解明した伊藤（1999）、屋根の材質等から秋田県の臨海集落を分類した永田（2004）などがある。しかし、対象地域が県域を越えて広域にわたる研究は僅かである。

本研究は以上をふまえ、広域にわたる住宅外観の変化と地域的特色を明らかにすることを目的とする。研究対象地域は、秋田県大館市－愛知県名古屋市間の地点とその周囲である。この範囲を設定したのは、住宅の外観の変化と違いを日本海側と太平洋側との対照、平野部と山間部の標高差を考慮して明らかにするためである。調査は、野外観察と、2万5千分の1地形図の図上観察を主として行った。研究対象地点は、主要国道沿いの10kmごとに設け、各地点ごとに任意の住宅10軒（集合住宅を含む）を調査対象とした（第1表）。

地点調査の項目は各住宅における、階数、外壁の素材と色彩、窓枠の素材と色彩、屋根の形態と素材と色彩、風除室である。各項目で最も多い属性を、その地点の代表属性とした。調査は、2004年9月と11月に行い、移動には自動車を用いた。

II 大館市－名古屋市間における集落の地理的特色

大館市から秋田市にかけてと山形県の庄内平野、および新潟県朝日村から長岡市にかけては、起伏が穏やかな平地が多く、水田に囲まれた集落が多い。秋田市から山形県遊佐町にかけて、鶴岡市から新潟県山北村にかけて、および柏崎市から柿崎町にかけては、日本海岸の狭小な平地にある集落が多い。

新井市から長野県信濃町にかけては、妙高山や黒姫山の麓の高原であり、傾斜地にある集落が多い。長野市から佐久市にかけて、および山梨県須玉町か

ら増穂町にかけては盆地であり、水田や果樹園に囲まれた集落が多い。長野県八千穂村から山梨県高根町にかけて、および山梨県中富町から静岡県静岡市清水にかけては狭い谷に形成された路村が多い。研究対象地域内で標高が100mを越すのは55番の新井市東志から83番の静岡市清水小河内にかけての範囲のみであり、最高点は1388mの72番の高根町清里の約3km北の南牧村野辺山である。

静岡市清水から島田市にかけて、および名古屋市では住宅が面的に連続する地域である。掛川市から豊橋市にかけては、平地が多く水田や茶畑に囲まれた集落が多い。愛知県小坂井町から刈谷市にかけては、住宅地と水田が混在している地域が多い。

第1表 研究対象地点一覧

地点番号	地点所在地	地点番号	地点所在地
1	大館市柳田3丁目	58	伊達町汗屋
2	鷹巣町藤沢	59	湯野町川谷
3	鷹巣町前山	60	長野市津野
4	二ツ井町榎	61	長野市川谷
5	鷹巣町鶴形	62	千曲市高瀬
6	長岡市大宮	63	山梨市下川
7	長野市豊金沢	64	上田市上塩尻
8	安曇町盛家	65	上田市大塚
9	田八郎岡町真坂	66	小諸市西原
10	昭和町田原	67	小諸市平原
11	秋田市船島	68	佐久市藤瀬
12	秋田市山王中島町	69	八千穂村下種
13	秋田市下宮掛根	70	小海町大瀬
14	秋田市内津川	71	南牧村野辺
15	本荘市鶴川	72	高根町清里
16	西目町蓮土瀬	73	高根町長沢
17	仁賀保町白浜	74	須玉町岩舟子
18	金浦町金浦	75	山梨県市元町2丁目
19	梁野町大須藤	76	南アルプス市北新屋
20	梁野町大須藤	77	梁野町西沢
21	梁野町東野	78	掛川市西谷
22	酒田市新土見町1丁目	79	梁野町下山
23	酒田市広野	80	身延町相又坂本
24	形勢市中京田	81	南部町藤沢
25	形勢市中清水	82	静岡市清水水天原
26	静岡市三郷	83	静岡市清水小河内
27	静岡市藤沢	84	静岡市清水大久保中町
28	静岡市大久保	85	静岡市清水大井町1丁目
29	山北町藤木	86	静岡市日ノ出町
30	山北町北中	87	静岡市宇津ノ谷
31	朝日村大須戸	88	藤枝市本町
32	朝日村藤沢	89	岡島市元島田
33	藤枝町上助屋	90	藤枝市日坂
34	元川町下鏡治屋	91	掛川市二郷川
35	中央町新栄町	92	掛川市土橋
36	新井市三日月	93	掛川市池田
37	豊栄市瀬ノ入	94	沼津市中田藤町
38	新井市中興町	95	豊原町藤沢
39	新井市紫竹山3丁目	96	湖西市元町
40	新井市島原	97	豊橋市高田町
41	白根市白根	98	豊橋市小坂井
42	三条市白鳥	99	豊橋市東藤川
43	長岡市百鬼	100	豊橋市藤川
44	中之島町五右衛門	101	岡崎市伏見町
45	長岡市富岡1丁目	102	刈谷市藤葉町
46	長岡市宮本東方町	103	名古屋有線区有松
47	柿崎市曾地	104	名古屋有線区四番2丁目
48	沼津市藤元町		
49	沼津市東藤川		
50	沼津市山崎町		
51	沼津町上下茶		
52	沼津町西藤島		
53	上越市下郷入		
54	上越市下郷井		
55	新井市東志		
56	妙高町小野沢		
57	妙高町高根町鶴川		

Ⅲ 大館市一名古屋市間における住宅外観の変化

1. 屋根の形態・素材・色彩

1) 屋根の形態

屋根の形態は切妻、寄棟か入母屋、陸屋根の3つに区分した。寄棟と入母屋を同一範疇としたのは、路上からの観察では判別が難しいためである。全体的には切妻が卓越する地点が多く、大きな地域的差異は見られなかったが、農家風の住宅が多い地点では寄棟か入母屋が多く見られた（写真1）。名古屋市では陸屋根が多く見られた。

2) 屋根の素材（第1図）

屋根の素材は、瓦であるか、それ以外であるかの2種類に区分した。ほとんどの地点は瓦屋根が多い地点である（写真1）。

瓦屋根が少ない地点は、13番の秋田市下浜桂根以北、および54番の上越市下箱井から58番の信濃町辻屋にかけてまとまって存在している。また、72番の高根町清里も瓦屋根が少ない地点である。

12番の秋田市山王中島町以北の各地点では瓦屋根が1軒も存在せず、13番の秋田市下浜桂根では瓦屋根が10軒中1軒のみ存在する。しかし、その南隣の14番の岩城町内道川では、瓦屋根が10軒中7軒存在する。このことから、秋田市と岩城町の間、瓦屋根の少ない地域と多い地域の明確な境界があるといえる。

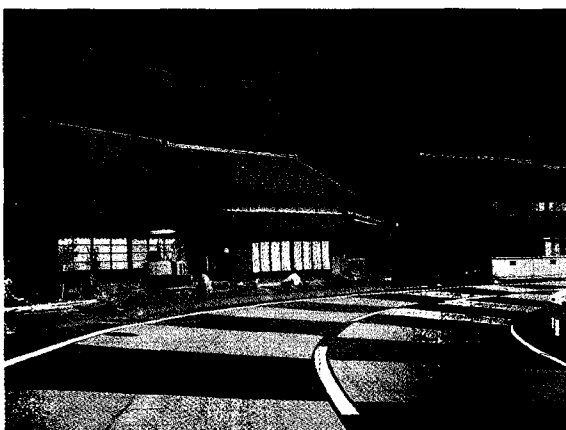
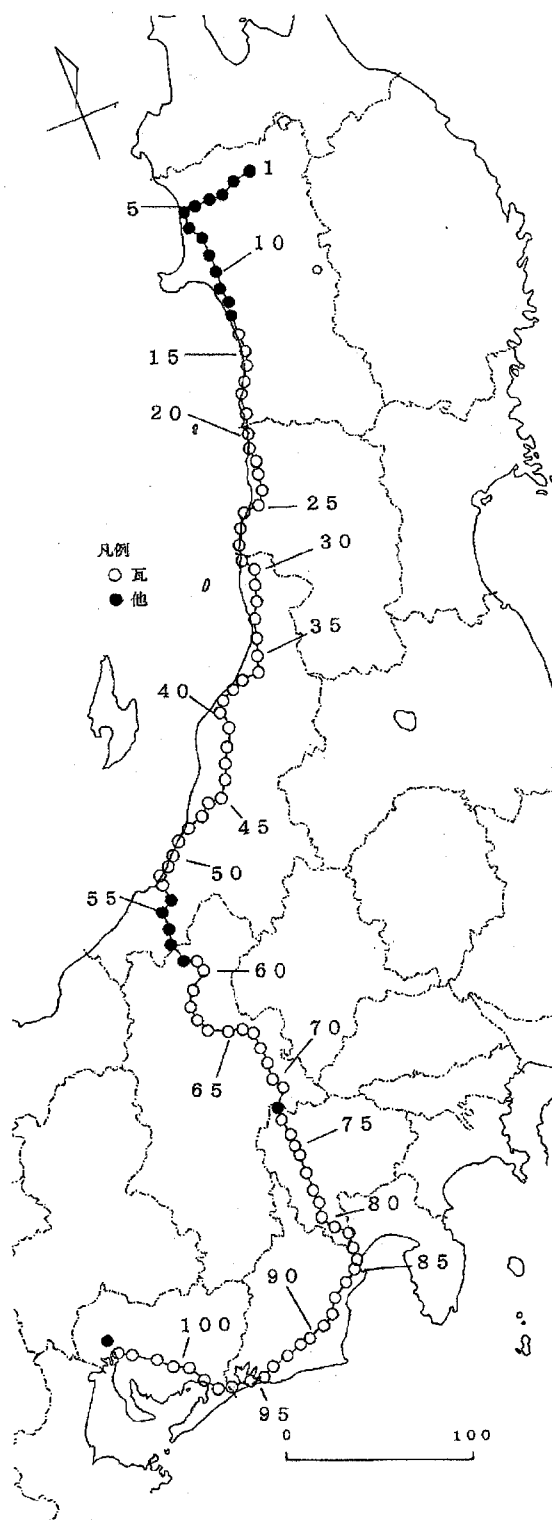


写真1 静岡市宇津ノ谷の切妻・瓦屋根の住宅群
(2004年11月17日 著者撮影)



第1図 大館市一名古屋市間の各調査地点における代表的な屋根の素材（2004年）
(現地調査および国土地理院発行「地図一覧図」より作成)

3) 屋根の色彩 (第2図)

屋根の色彩は、灰色が多い地点と、黒色が多い地点とに大別できる。概してこの灰色と黒色は瓦屋根の色である。黒色の瓦は、14番の岩城町内道川以南の秋田県、山形県、および34番の荒川町下鍛冶屋以北の新潟県に多く見られる。一方、灰色の瓦は、35番の中条町新栄町以南に普遍的に見られる。

13番の秋田市下浜桂根以北、および55番の新井市東志から58番の信濃町辻屋にかけてでは、様々な色彩が混在しているが、これらは前述の瓦屋根が少ない地点である。瓦以外の素材の屋根では、色彩の選択肢がより豊かであるといえる。

2. 外壁の素材・色彩

1) 外壁の素材 (第3図)

住宅の外壁で土壁が多い地点は、長野県と山梨県に多く、静岡県にもいくつか見られる。木材が多い地点は新潟県に多い。長野県と山梨県、新潟県では、新しい住宅でもそれぞれ土壁と木材が外壁に用いられていることが多い。

パネル材は、秋田県と山形県の地点に多く、それ以外の県にも見られる。トタンは、静岡県と愛知県に多く見られる。

2) 外壁の色彩

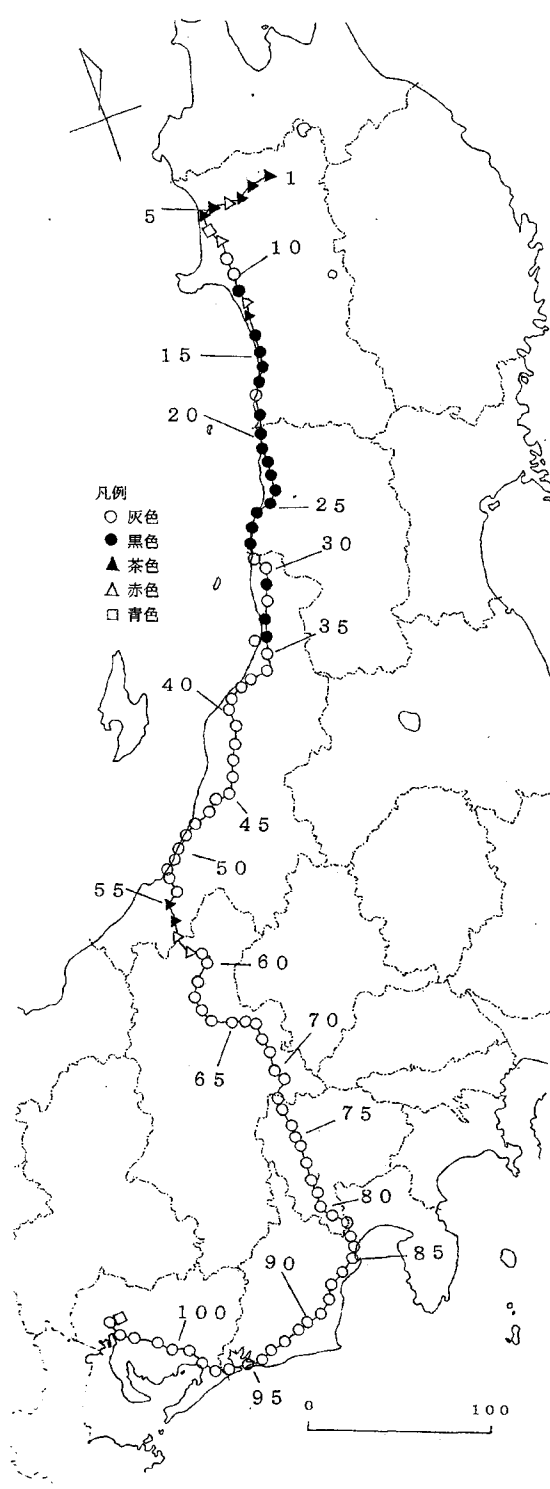
白色の外壁は、山形県、長野県、山梨県に多く見られる。茶色の外壁は、15番の本荘市親川以南の秋田県、新潟県、愛知県に多く見られる。静岡県では、白色、茶色の外壁がともに多く見られる。

長野県と山梨県で白色の外壁が多いのは、この両県に多い土壁が白色である場合が多いためである。新潟県に茶色の外壁が多いのも同様で、外壁の木材が茶色であることが多いためである。

14番の岩城町内道川以北の各地点では、様々な色彩の外壁が混在しているが、パネル材の外壁が多い。パネル材の外壁では、色彩の選択肢が豊かであるといえる。

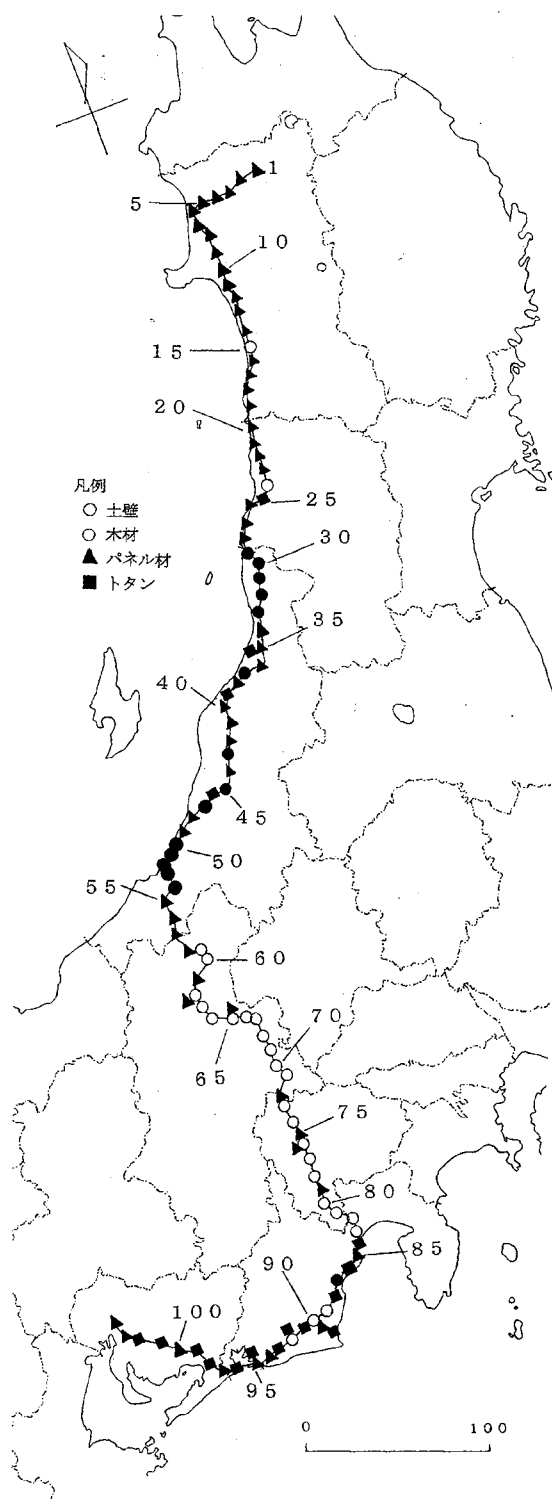
3. 風除室の分布・他の項目別特徴

風除室とは、玄関の外に備え付けられた硝子張りの小部屋の名称であり、冬期において屋外の冷気の建造物内への侵入を防ぐ役目を持っている。風除室は、34番の新潟県荒川町下鍛冶屋以北の地点にのみ存在する。特に多いのは11番の秋田市飯島から17番の仁賀保町白浜にかけてであり、この範囲のどの地



第2図 大館市—名古屋市間の各調査地点における代表的な屋根の色彩 (2004年)

(現地調査および国土地理院発行「地図一覧図」より作成)



第3図 大館市—名古屋市間の各調査地点における
代表的な外壁の素材(2004年)
(現地調査および国土地理院発行「地図一覧図」より作成)

点においても10軒中4軒以上存在する。しかし、34番以北であっても存在しない地点もある。全体的に新しい住宅に多く、古い住宅には少ない傾向がみられた。

階数の広域的差異はほとんど見られなかったが、大都市の中心部に近い住宅は3階以上の割合が多い。104番の名古屋市熱田区四番2丁目は3階以上の住宅が10軒中6軒であり、最高のもは11階の高層マンションである。

窓枠の素材と色彩については、広域的差異はほとんど見られなかった。

IV むすびに

本研究は、広域にわたる住宅外観の変化と地域的特徴を明らかにすることを目的とした。その成果は、以下の通りである。

1. 屋根形態の広域的差異はほとんど見られない。
2. 屋根の素材では、秋田市以北と妙高高原に瓦以外の素材が多く、その他の地点は瓦が多い。
3. 屋根の色彩は、新潟県荒川町以北に黒色の瓦が多く、中条町以南に灰色の瓦が多い。瓦以外の素材の屋根が多い所では色彩が多彩である。
4. 外壁の素材・色彩は、長野県と山梨県に白色の土壁、新潟県に茶色の木材、秋田県と山形県に多様な色彩のパネル材が多い。
5. 風除室は、新潟県荒川町以北に見られる。階数と窓枠の広域的差異はほとんど見られなかった。

本稿の作成にあたり、秋田大学教育文化学部の篠原秀一先生に終始貴重なご指導、ご助言をいただいた。末筆ながら深く感謝申し上げます。

文 献

- 伊藤徹哉(1999): 仙台市における住宅地景観の地域的特徴およびその形成過程. 地理学評論, 第72巻, 357-380.
- 永田由香子(2004): 秋田県における景観構成要素から見た臨海集落の特色と分類. 秋大地理, 第51号, 29-32.